



2023年秋号（第19号）



学科旅行 IN 岡山



今年、4年振りに宿泊を伴う学科旅行として吉備津神社、岡山城、後楽園、福山城、ふくやま草戸千軒ミュージアム、倉敷美観地区を訪れました

吉備津神社では、全国唯一といわれる比翼入母屋造（吉備津造）の本殿に参拝し、その見事さに感服しました。この神社には、吉備の発展に貢献した伝説があり、桃太郎のモデルとされる大吉備津彦命（オオキビツヒコノミコト）が祀られています。境内には長い廻廊が続き、入母屋造妻入の岩山宮をはじめとする社殿も多く鎮座しており、御竈殿では吉備津神社特有の神事である釜の音で吉凶を占う鳴釜神事が行われています。同じく境内にある宇賀神社は、吉備最古の稻荷社であり、また上古の祭祀様式に基づいた庭園があります。また、吉備津神社は犬養毅が崇敬していたことでも知られ、境内には犬養が書いた社号標や彼の銅像がありました。このように、遺跡・祭事から、この神社が古代から現代に至るまで吉備地方の信仰を集めてきたことが感じられました。



▲岡山城



▲吉備津神社



▲倉敷美観地区



▲福山城

岡山城では、城主を務めた宇喜多氏・小早川氏・池田氏を軸に岡山城及び城下町岡山について学びました。天守は、黒壁や金の瓦・鯨が特徴的で、見る方向により変わる形状も楽しむことができます。昨年リニューアルされた天守内部には、岡山県出身の歴史学者・磯田道史氏監修の三大名家それぞれの城下町建設や治水事業、学問の興隆といった内政面が詳しく記されたパネルが豊富にあり、現在に続く岡山の発展について理解を深めることができました。また、日本刀や火縄銃、駕籠のような体験型の展示も充実していました。天守以外の城郭施設では、数少ない現存建築物である鏡櫓や、他に二条城など少数の城にしか存在しない石狭間、場所によって築造時期や積み方が異なる高石垣など岡山城ならではの遺構があり非常に興味深いものでした。

今回の旅行では、実際に遺跡や展示を見たり、話を聞いたりして多くのことを体験・学習できました。来年の学科旅行も良いものになることを願います。（佐藤）

文化遺産学フィールド実習 IN 小豆島

今年度の文化遺産学フィールド実習は9月15日、16日の二日間にかけて小豆島において行われました。一日目は重要有形民俗文化財にも指定されている中山農村歌舞伎舞台修理現場の見学、春日神社の狛犬の調査を行いました。二日目の午前には中山千枚田を散策し、その景観と現状について調査しました。そして、千枚田の頂上にある湯船山では石造物調査を行いました。お昼ご飯には千枚田で収穫されたお米、小豆島の特産物を使用したお弁当を食べ、午後からは小豆島の文化の保護に携わっておられる方への聞き取り調査、大坂城石垣石切丁場跡の見学を行いました。

実習後には調査で得られた知見を事後レポートにまとめました。文化遺産学コースでの学びは実地調査に基づくものが多くあります。

この実習では先生方の調査を間近で見ることができ、調査をすることができます。また現地で文化財の保護、活用をされている方から現状をお聞きする事で、文化財保護に関連する課題などに対して、考えることができるようになったと思います。

文化遺産学コースに進もうと考えている1回生は、来年ぜひ参加してはいかがでしょうか。（岩井）



▲中山農村歌舞伎舞台修理現場



▲中山千枚田



▲大坂城石垣石切丁場跡

卒業論文中間報告会



10月25日（水）から27日（金）にかけて歴史学科の4回生による卒業論文中間報告会が行われました。

上回生や先生方だけでなく、多くの下回生も参加していました。15分間の発表の後に設けられた質疑応答の時間では質問がとび、特に上回生の的確で鋭い質問を聞き、我々下回生は発表を聞く際どのような視点を持つべきかを学ぶことができました。

質疑応答の最後には担当教員からの質問やコメントがされ、設定した課題とまとめの整合性、史料批判が適切にされているか、論理的な説明がなされているかといった点を指摘されていました。

これらのコメントは中間報告を聞きに来ていた多くの下回生にとってもこれからレポートや卒業論文を書いていくうえで必要となる考え方であり、どういった点が課題になるのかを早い段階から知ることができるので大変ためになりました。

卒業論文の報告会に参加したことで自分たちの将来の姿がはっきりとし、多くの学びを得ることができました。4回生の先輩方、お疲れさまでした。（安田）

今号は浅田・寺本・高崎（校正）、芝田・米山・若山（編集）が担当しました。

デザ研について～About Us～

文化遺産デザイン研修は歴史学科の課外活動です。歴史や文化遺産に関する内容を自分たちで調査し、その成果を適切に表現・発信することを目的とし、インプットからアウトプットまでをデザインします。また、活動を通じてメンバー自身の成長とキャリアデザインの機会にもなっています。

2023年度は学科ニューズレター「れきしんぶん」の発行に加え、卒業生インタビュー、昨年度好評だった一回生と教員の交流を図るPS交流会などを実施する予定です。

作成：京都府立大学文学部歴史学科文化遺産デザイン研修

発行：606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学文学部歴史学科



FOLLOW ME...
@designkenshu